

## 古着の行方をたどる旅

— 歴史的・文化的・精神的な復活 —

なかの としやす  
ナカノ株式会社 代表取締役会長 中野 聰恭

## はじめに

ナカノ株式会社は1934（昭和9）年、日産自動車、読売ジャイアンツが誕生した同じ年に、故繊維問屋として横浜で創業しました。繊維リサイクルは、ベンチャー企業の新事業と考えられている方も多いようですが、意外と古くから有る事業なのです。それというのも、家庭から排出される同じ不用品でありながら、古紙、ビン缶、ペットボトルなどの、再び原料としてメーカーに戻るリサイクルと違って、カスケード型<sup>†</sup>のリサイクルとなっているからです。さらに再生ルートが複雑多岐に渡り、リサイクル品の行方が想像しづらい上に、事業者は中小零細企業が多く、リサイクル情報の発信が少ないためだと思います。繊維リサイクルは古くて新しい、また物としての循環情報だけでなく文化的、歴史的な情報も多く持った事業ですので、稚拙ながらナカノの取り組み事例を含めて、できるだけお伝えしたいと思います。

## ■故繊維、古繊維、襦袢、繊維屑という言葉の意

冒頭、「故繊維問屋」と見慣れない言葉を使いましたが、廃棄繊維には二種類あります。一つが家庭から排出さ

れる襦袢<sup>じゆばん</sup>ですが、近頃は襦袢が死語となっており、同音語の古繊維と表記されるものと、もう一つが製造工程で排出される裁断屑や落ち綿の繊維屑です。この古繊維と繊維屑の二つを合わせたものを、故繊維と表記します。廃掃法<sup>††</sup>のように排出元の違いで、呼び名を使い分けしているのではありません。古繊維（襦袢）と屑では同じ繊維でも、再商品化するのに素材特性に違いがあるので分かれています。

## ■繊維リサイクルの始まり

繊維リサイクルの歴史は古く、人類の歴史と一緒に始まったといっても過言ではありません。動植物のように丈夫な皮膚や毛皮を持たない人類が、今日の繁栄を築くことが出来たのも、第二の皮膚といわれる衣料品を手に入れたからです。天然繊維を原料とする時代には、自然環境に左右される生産量には限界があり、布を作る工程には大変な労力と時間を必要としたところから、繰り返し使うリユース、リメイクがあたりまえでした。平面裁断でカットされフリーサイズに仕立てられた和服は、資源小国日本のもったいない文化が生み出した環境配慮設計の衣料品といえます。

1885（明治18）年発行の「神奈川

† カスケード型：多段的に利用する方式。再利用することで、品質は下がるが、下がった品質のレベルに応じて利用する。

†† 廃掃法：廃棄物の処理及び清掃に関する法律

統計書」によれば、横浜には178軒の古着商が記載されています。呉服商は108軒と記録され、軒数の上からすると、新品より古着のほうが主流となっているのがわかります。同書によれば軒数の多い順に、売薬商890軒、菓子商759軒、砂糖商609軒、古道具商330軒、穀物商280軒、酒商271軒、新炭商245軒、煙草商243軒、青物商218軒、に次いで古着商178軒と第10位にランクされています。ちなみに呉服商は14位となっています。また神奈川県下全域では、なんと古着商は卸売商3軒、仲卸商101軒、小売商11,044軒の多くを数えています。お店の数から見ても、いかに古着が生活の中に溶け込んでいたかが想像されます。

### 3 産業用原料として回収する繊維リサイクル業の始まり

産業用原料として繊維リサイクルが始まったのは、1868（明治初）年に当時の最先端情報ツールである活版印刷に使用する紙、「洋紙」を造る製紙原料として木綿の襤褸を集めるために、全国に襤褸屋が誕生しました。現在の洋紙は木材パルプを原料として造られていますが、当時は襤褸が原料だったのです。このあたりの詳しい情報は、ナカノのホームページ <http://www.nakano-inter.co.jp> をご参照ください。当初襤褸屋は「製紙製綿原料商」と呼ばれ、紙の原料、製綿の原料を取扱う業者でした。一緒に集まるウールなど製紙に不向きな襤褸も、反毛（もとの綿状に反すこと）原料としてリサイクルしていました。

### 4 繊維リサイクルの流れ

1999年に繊維屑輸出組合が調査した「故繊維の流通・加工ルート図」を添付します。

現在は家庭からの回収ルートに古着ショップの買取や、衣料品店などの下取りルートが含まれますが、基本的な流れは同じです。回収された故繊維は次の3Rの用途に大別されます。

#### ① Reuse：～中古衣料～

原型を活かしたりリサイクル

#### ② Remake：～ウエス～

素材を活かしたりリサイクル

#### ③ Resource：～反毛～

再生原料としてリサイクル

上記用途にしたがってさらに、色柄、形状、季節、性別、サイズ、素材 etc. さまざまな要因で細かく130～140種類に選別されますが、おおよその大別比率は①が50%、②が20%、③が30%です。

#### ① Reuse〔再使用〕

家庭内でも行われたり、フリーマーケットや古着ショップを最近よく見かけるようになりましたので、一番理解しやすいリサイクルの方法ですが、故繊維業者の取扱いは一番新しいアイテムです。元々は古着商の取扱いでしたが、高度成長期の大量生産、大量消費型への産業構造の転換によって、古着商が立ち行かなくなり、廃掃法が成立する1970年頃には、行き場を失った古着の多くが故繊維業者（襤褸屋）の回収品の中に入り始めました。回収された古着は80種以上で細かく選別され、主に体系の似

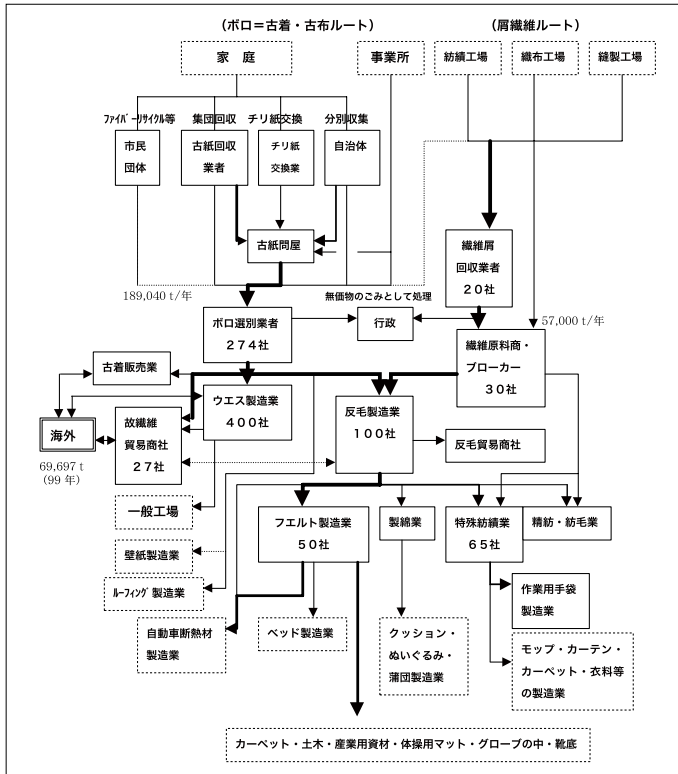


図1 故繊維の流通・加工ルート図

通った東南アジアに輸出されます。最近日常的に目にする機会の多くなった国内の古着ショップですが、金額的には大きなマーケットに復権していますが、数量的には回収衣料の2～3%といったところです。

## ② Remake [再利用]

回収故繊維の持っている機能を利用して、別用途の商品に作り変えるリサイクルの方法です。代表的な商品が工業用の油拭きの雑巾、ウエスです。ウエスの語源は英語のWaste（無駄、屑、不要物）で、元々

は産業革命時に綿紡績で発生する糸くずを、機械の製造・メンテナンスに使ったのが名称の起こりです。しかし紡績産業が未発達で糸くずの発生しない日本では、ウエスの原料は繊維屑ではなく、襦袢を使いやすい大きさに切り開いて、拭い布（ウエス）にしました。皆さんもお風呂やシャワーの後で新品のタオルより、使い古しのタオルのほうが、肌身に馴染んでよく水分を吸うというご体験はありませんか。洗い晒された木綿製品は

綿の脂分が取り除かれ、吸収性が高まるからです。お化粧や怪我の治療に使うダッシュ綿は、脂分を工業的に取り除いた脱脂綿です。洗濯という生活行為で生み出され、不要となって排出される時には脱脂済み繊維となる襤褸を、拭き物に作り変えたのが日本のウエスです。もったいない文化が生み出した世界に冠たる環境対応型の商品がウエスといえます。綿ウエスを新規に造るのに比べCO<sub>2</sub>の発生抑制効果は100分の1<sup>1)</sup>(図2)、かつリメイク効果としてのごみ減量、消費(生活行為)が生産(生産工程)に直結している、また使い古しが新品より性能が高まった特異な商品として、グリーン調達の見直しもリサイクルウエスの評価見直しを是非進めて欲しいと思います。

### ③ Resource [再生原料]

洋紙の生産量の拡大や紙質の高級化、そして製紙には不向きな化学繊維の出現によって、製紙原料としての古繊維の使用は殆どなくなりました。紡績原料としての流れも、物資のない時代には再生繊維原料として大いに活躍しましたが、

1953(昭和28)年朝鮮動乱の終了と同時期に起こった、化学繊維、合成繊維の出現により反毛綿を原料とした紡績の流れは大きく後退します。現在でも細々とウールは紡毛紡績原料として使われているにはいますが、現在の主流は反毛綿を原料に使った反毛フェルト(不織布)が大きく成長し、自動車部品や建築・土木資材に使われています。

### ④ 特殊紡績手袋「よみがえり」「よみがあ〜る」の効果

ナカノのコンセプトは「活かす」ですが、伝統的な特殊紡績技術と襤褸を原料に活かして、昨年創業75周年記念の企画商品、特殊紡績手袋「よみがえり」(男性用)と「よみがあ〜る」(女性用)を造りました。CO<sub>2</sub>の発生は綿紡績で造る通常手袋の6分の1<sup>1)</sup>に抑えられるところから、各方面より評価をいただき、発売1年余りで20万組を超えるご利用をいただきました。これは回収襤褸を約10,360kg(Yシャツ1枚200g換算で、約51,802枚分)をリサイクルしたことになります。CO<sub>2</sub>発生抑制効果も、上記経産省参考資料に基づいて換算すると、5,368kgとなりま

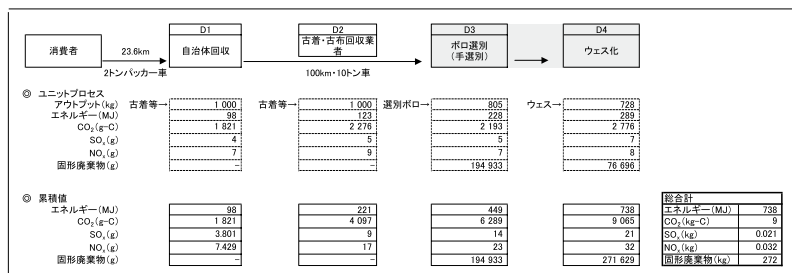


図2「繊維製品(衣料品)のLCA調査報告書」より(2003年 経済産業省)<sup>1)</sup>

す。この量のCO<sub>2</sub>を1年かけて吸収するのに必要な森林面積は8,267㎡となり、テニスコート約32面に相当します<sup>2)</sup>。また純綿軍手と対比した場合、Tシャツ1枚分の綿花を生産するのにスプーン10杯の農薬を必要するといわれていますので、Tシャツ1枚を142g、スプーン10杯を30gとすれば、使用農薬の抑制効果も145kgとなります。さらに、ジーンズ1枚分の綿花を生産するのに、800Lもの水を使用するそうですので、ジーンズ1枚を800gとすれば、水資源の使用量抑制効果は986,422Lとなります。これは、短水路(25m)プールの容積を562,500Lとしますと、約1.8杯分に相当します。いつもガーデニングやお掃除、街の美化運動などでお使いになる作業手袋を、古着・古布を再生して造った手袋に代える、チョットした気遣いだけで、これだけの大きな効果が生まれるのです。

## 6 ナカノのEcosophy 提案

特殊紡績手袋「よみがえり」「よみがあ〜る」は、ナカノの提案・提唱するEcosophyの具現化商品でもあります。2010年10月、愛知でCOP10が開催されましたが、地球温暖化ガス25%削減など環境保全対策が中々進まない背景には、Ecology(環境)とEconomy(経済)が、生態や環境を意味する同じEcoから始まる言葉でありながら、Ecologyを進めると



特殊紡績手袋「よみがえり」&「よみがあ〜る」

Economyが衰退し、Economyを発展させるとEcologyが壊される。人類の豊かさを求める行動の中に、この二つのEcoの対立があるからではないでしょうか。今日の問題の解決にとって、ナカノはEcologyとEconomyの二つのEcoを共生、バランスさせる人類の知恵(Philosophy)が求められていると考えています。それがナカノの提唱する第三のEco、Ecosophyです。人類の歴史は「豊かさと安心・安定」を求めた歴史でもあります。ナカノは豊かで持続可能な循環型社会を構築する知恵、Ecosophyを繊維リサイクルの中に活かす活動を、これからも続けたいと考えています。

### 参考資料

- 1) 経済産業省「繊維製品(衣料品)のLCA調査報告書(2003)  
URL:[http://www.meti.go.jp/policy/mono\\_info\\_service/mono/fiber/downloadfiles/LCA-hontai.pdf](http://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/mono/fiber/downloadfiles/LCA-hontai.pdf)
- 2) 第1回地球環境保全と森林に関する懇談会資料(2002)